

日本畜産学会報のための論文投稿の手引き

日本畜産学会報のための論文投稿の手引き（投稿の手引き）は、原稿執筆の際の指針として日本畜産学会報投稿規程（投稿規程）を補うためのものである。

【論文の作成方法】

1. 投稿要領

論文および添え状は、コンピュータソフトを用いて作成し（本文は Word (.doc) 形式、図表は Excel (.xls), EPS, TIFF, JPEG 形式で保存したもの）、J-STAGE (ScholarOne Manuscripts) のオンライン論文投稿・審査システムから投稿する。

URL: <http://mc.manuscriptcentral.com/chikusan>

2. 論文の体裁

論文は、表題、著者名、所属機関名とその所在地、連絡者、略表題、要約、本文（緒言、材料および方法、結果、考察、謝辞）、文献、図表（説明文を含む）、英文抄録の順とする。本文においては結果および考察など、適宜一緒にすることが出来る。ただし、英文抄録の添付は著者の希望による。

研究の性格の特殊性により、投稿の手引きに従うことが困難な場合には、異なった体裁でも編集委員会で許可することがある。

3. 用紙と字数

A 4 サイズの用紙を縦方向に使用し、上下左右とも 2.5 cm の余白を設ける。なお、約 2,000 字が刷り上がり 1 ページとなる。

35 字×25 行の横書とする。その際、現代仮名遣いと常用漢字を用いる。タイトルページ（表題、著者名、所属機関名とその所在地、略表題を含む）を第 1 ページとし、要約を第 2 ページとする。第 3 ページより緒言以下の本文を作成する。連続したページ番号を見やすい位置に記入する。行番号はページごとに付け、左側の余白に記入する。

4. 表題

表題は、論文内容を的確、かつ、簡潔に表現する。

5. 著者の所属機関とその所在地

著者全員の氏名、所属機関および部局、その所在地、郵便番号を記入する。

6. 略表題

略表題は製本の際にランニングタイトルとして使用される。日本語で 15 文字以内とする。

7. 要約および抄録

要約および英文抄録には、目的、方法、結果、結論の要点を簡潔明りょうに表現する。英文抄録は表題、著者名、所属機関名とその所在地、連絡者を抄文の前に加える。要約は個々の論文内で本文の前におかれ、英文抄録は個々の論文の最終ページにおかれる。要約は 400 字以内、英文抄録は 400 語以内とする。

8. キーワード

要約および英文抄録の後にそれぞれ 5 個以内の単語（あるいは 3 単語以下からなる語句）をキーワードとして記載する。キーワードは、論文の内容や研究分野を示す言葉を吟味して選択する。余りにも一般的なものの使用は避け、五十音順またはアルファベット順に並べる。キーワードは巻末に索引として利用される。

（例）Ca は calcium metabolism, calcium intake など、protein は protein synthesis, milk protein などとする。

9. 本文

投稿する前に十分に文章を推敲し、論旨の明りょうな論文にする。英文抄録および図表の説明の英文は十分に推敲し、かつ英文論文の作成に造詣の深い第三者の校閲を受けたものとする。編集委員会が必要と認める場合には英文校閲を受けなければならない。その費用は著者負担とする。

- 1) 専門用語は、原則として「学術用語集」、日本畜産学会編「新編畜産用語辞典」などによる。特殊な専門用語は極力使用を避ける。難解な漢字は、なるべく平仮名で表記する。数字はすべて算用数字を用いる。
- 2) 動物と植物の和名は原則として片仮名とする。
(例) ヒト, ウシ, ウマ, ヤギ, ヒツジ, イネ, コメ, ムギなど
- 3) 本文ならびに文献リスト中の外国人名は原名つづりで書く。その他の外国語は原字または片仮名で書く。
- 4) 本文中の文献引用箇所には著者名と年号を、または著者名の後に年号を括弧付きで示す。
(1) 2人の連名のときは必ず両者の姓を併記し、3人以上の連名のときは筆頭著者以外を“ら”と略記する。
(例) …報告した(Nalbandov 1963). …報告されている(Smith ら 1950; Drori と Loosli 1958). Nalbandov (1963)は…, Drori と Loosli (1958)は…, Smithら(1983)は…
(2) 同じ括弧の中で複数の引用著者がある場合は、年号の古い順、また同一年の場合はアルファベット順に書く。
- 5) 略語は、要約、本文および図表のそれぞれで最初に使う所で正式名称を記し、()内に略語を示す。
- 6) 化学名、物理・化学量は、IUPAC の勧告に従う。単位は原則として SI 単位を用いる。SI 単位に含まれないもの、および常用されていない単位については慣用的に用いられている単位を使用してもよい。
(例) h, min, s, °C, mmHg, Hz, mL, mol/L, g (重力)
数値と単位との間は、%と°Cを除き、スペースをとる。
(例) 10 mmol/L, 25%, 37°C
- 7) ラテン語系副詞および慣用語ならびに学名(動物、植物、微生物の種名に限る)は、*in vivo*, *in vitro*, *Rattus norvegicus* のようにイタリックで表記する。
- 8) 用いた動物の飼育および動物を使用した実験については、それぞれの機関のガイドラインに従って行ったことを示す。それが不可能な場合には、動物倫理に十分な配慮が払われたことを明記する。
- 9) 材料と方法の項で製造者を示す場合は、会社名、都市名、国名(日本は除く)を表示する。2回目の引用の際には、会社名のみを表示する。

10. 文献

- 1) 引用できる文献は、単行本を除き、審査員制度を採用している学術雑誌を原則とする。ただし、編集委員会が認めた場合には、電子資料、特許およびその他の引用を含めることができる。技術報告の場合は、この制限は適用されない。
- 2) 雑誌名は略さない。
- 3) 印刷中の論文を引用する場合はその原稿を添付する。
- 4) 引用した文献のリストは、次の手順により作成する。
(1) 雑誌に掲載された文献の記載は、著者名(全員)、発行年、表題、雑誌名、巻、開始—最終ページの順とする。

- (例) Drori D, Loosli JK. 1959. Influence of fistulation on the digestibility of feeds by steers. *Journal of Animal Science* 18, 206-210.
- (例) 大山嘉信, 柁木茂彦, 森地敏樹. 1973. サイレージの発酵経過に及ぼす埋蔵温度およびグルコース添加の影響. 日本畜産学会報 44, 55-67.
- (2) 単行本の記載は, 著者名, 発行年, 書名, 版, 引用ページ, 発行所, 発行地の順とする. 分担執筆の場合は編集または監修者名を加える.
- 成書の場合
- (例) Nalbandov AV. 1963. *Advances in Neuroendocrinology* 2nd edn. University of Illinois Press, Urbana, IL.
- (例) 諏訪良夫. 1977. 定量形態学. 第1版. 岩波書店, 東京.
- 成書中の章の場合
- (例) Folley SJ, Malpress FH. 1948. Hormonal control of mammary growth. In: Pincuss G, Thimann KV (eds), *The Hormones*, vol. 1, pp. 695-743. Academic Press, New York.
- ただし, 著者が単名の場合は, (eds)のかわりに (ed.)を用いる.
- (3) 博士論文の記載は, 著者名, 発行年, 表題, Ph.D. Thesis (博士論文), 大学名, 国名 (外国の場合) の順とする.
- (例) Suzuki, Y. 2016. Study on the physiological functions of two endocrine factors derived from the liver, ANGPTL8 and Chemerin, in Ruminants. Ph.D. Thesis, Tohoku University.
- (例) 陆 拾柒. 2016. 豚マイコプラズマ性肺炎(MPS)病変、末梢血免疫能選抜純粋種豚及びそれらの交雑豚の MPS 抵抗性と免疫特性に関する研究. 博士論文, 東北大学.
- (4) 電子資料の記載は, 発信機関名, 発信年, ホームページの名前, 機関名, 所在地, 引用年月日, URL の名前の順とする.
- (例) National Center for Biotechnology Information (NCBI). 1990. Nucleotide-nucleotide BLAST (blastn) [homepage on the Internet]. National Center for Biotechnology Information, Bethesda, MD; [cited 13 December 2002]. Available from URL: <http://www.ncbi.nlm.nih.gov/blast/>
- (5) 特許を引用するときには, 発明者名, 発明出願年, 発明の名称, 特許番号 (得られていない場合は, 公開番号, または出願番号でも可) の順に書く.
- (例) 友金 弘. 2002. ブタの肉質の改善方法. 特許番号 ; 3433212.
(外国の場合には, 国名等を記載する)
- (6) 文献リストの記載順序
- ①筆頭著者の姓をアルファベット順に並べる.
 - ②同一筆頭著者による複数の文献がある場合は, 単著論文を始めにおき, 次に複数著者文献を第2著者, 第3著者のアルファベット順に並べる. さらに同一複数著者の場合は発表年順にする.
 - ③同一筆頭著者による単著, 2名あるいは3名以上の共著にそれぞれ同一発表年の文献がある場合には, 本文中に引用した順にアルファベットを付ける.

11. 図表

- 1) 用紙はA4サイズを用いる. 縦あるいは横方向に使用し, 1ページに1図表とする.
- 2) モノトーン原図 (グラフや模式図など) では, 縦軸横軸の説明, 数字, 記号などを図に直接記入する.

- 3) ハーフトーン原図（顕微鏡や電気泳動写真など）は、鮮明なものを使用する。
- 4) 図の説明（legend）は英文または和文で別紙にまとめてタイプし、番号順に記述する。
- 5) 表は、英文または和文で作成する。表の説明は、同一の用紙に記述する。有意差検定などの記号は、容易に判読できるように指示する。
- 6) 図や表を挿入する位置を本文中の右側の余白に指示する。ただし、印刷の都合で希望に添えない場合がある。

12. 倫理的配慮

著者はその研究がそれぞれの機関のガイドラインに従って行われたものであり、ヘルシンキ宣言の規程に準拠していることを明記しなくてはならない。ヒトや動物を用いた研究が倫理に反していると判断した場合には掲載を拒否することがある。

動物を使用した実験については、動物倫理に十分な配慮が払われ、動物実験のガイドラインにしたがって行ったことを明記しなくてはならない（「Animal Science Journal のための論文投稿の手引き」に準拠）。

13. 日本畜産学会報承諾書

出版に際し提出が必要となる。日本畜産学会ホームページからダウンロードした承諾書の所定の箇所にサインをしてPDFにしたものを論文採択後に原稿とともに提出する。

【投稿論文の審査と掲載方法】

1. 審査手順

掲載の可否は、編集委員または編集委員会が依頼した審査員の審査を受けた後、編集委員会が決定する。審査は、投稿規程と投稿の手引きに基づき行う。審査員は、審査の過程で論文に対し訂正を求めることがある。審査の回数は原則として2回までとする。

2. 再審査の要領

再審査の原稿は、コンピュータソフト（Word (.doc) 形式）を用いて新しく作成する。図表に変更があった場合も同様とする。審査員のコメントへの対応はオンライン上に直接記載するか、またはそれらを記載したファイルを添付する。必要書類のファイルを作成の上、J-STAGE（ScholarOne Manuscripts）のオンライン論文投稿・審査システムから投稿する。

3. 掲載順序

掲載の順序は、審査終了順とする。

4. 著者校正

著者校正は1回とする。校正の際、字句の追加、削除または文章の移転は許されない。修正点は赤字で明りように指示し、指定された期日までに編集委員会へ返却する。

1995. 1. 1 制定
 1998. 7. 2 改正
 1999. 10. 10 改正
 2001. 11. 23 改正
 2004. 1. 31 改正
 2007. 2. 10 改正
 2009. 5. 16 改正
 2011. 4. 16 改正
 2012. 1. 28 改正
 2014. 10. 25 改正
 2018. 1. 27 改正
 2018. 7. 24 改正

日本畜産学会報のための論文投稿の手引き 附表

用語について：一般用語は毎日新聞用語集，専門用語は新編畜産用語辞典などに準拠する。
論文体裁の統一にご理解・ご協力をお願いします。

	日本畜産学会報	備考/準拠 (ち：畜産用語辞典, ま：毎日新聞用語集)
0.01 %	→ 0.01%	数字と%の間はスペースをとらない.
10 °C	→ 10°C	数字と°Cの間はスペースをとらない.
0.01 μmol	→ 0.01 μmol	その他の単位の場合は, 数字と単位の間スペースを設ける.
1 M, 1 μM	→ 1 mol/L, 1 μmol/L	国際単位系に基づく.
1 μM/mL	→ 1 μmol/mL	
1 ヶ月, 1 か月	→ 1 カ月	ま
kg/day	→ kg/日	
/h, /min, /sec	→ /時, /分, /秒	
(確率の) P	→ <i>P</i>	斜体文字
pH7.2	→ pH 7.2	
イナワラ, 稲ワラ	→ 稲わら	ち
いね, 稲	→ イネ	
及び	→ および	
およぶ	→ 及ぶ	ま
きわめて	→ 極めて	ま
組み換え	→ 組換え	ち
毎	→ ごと	ま
米, 麦	→ コメ, ムギ	
米糠, 米ヌカ	→ 米ぬか	ち
さかん	→ 盛ん	ま
更に	→ さらに	
すでに	→ 既に	ま
全て	→ すべて	ま
だいで, 大豆	→ ダイズ	
だいでカス, ダイズ糟	→ 大豆粕	ち
とくに	→ 特に	ま
屠体	→ と体	
屠畜	→ と畜	
ともなう	→ 伴う	ま
等	→ など	ま
並びに	→ ならびに	
フン, ふん	→ 糞	ち
迄	→ まで	ま
もっとも	→ 最も	ま
尤も	→ もっとも	ま
もも肉	→ モモ肉	
我が国	→ わが国	
われわれ	→ 我々	ま